福田　豊紀

《藤間病院総合検診ｼｽﾃﾑの現状とこれから》

・地域での役割

当院の健診システムは昭和 48 年に設立され、癌や生活習慣病の予防と早期発見、健康の増進と維持を目的とした医療活動を進めてきました。設立当初の受診者は社会の第一線で活躍する壮年期の方々が多くを占めていましたが、世界有数の長寿国になった昨今では、高齢の受信者が増える傾向にあり、高齢者に適した健診事業のあり方はすぐにでも取り組まなければならない課題です。

また近年の国際化の波により海外勤務に従事する人が増えるのに伴って、海外でも通用する健康診断書の必要性が高まることが予想されます。当院では、このような時代の変化に伴う健診需要の変遷に、迅速に対応できるシステム作りをすることで、受診者の皆様の健康維持と増進のご要望に応えていかなければなりません。

・藤間病院総合健診システムの施設の特徴

総合健診システムは、藤間病院内にある、当院診療科で治療が可能な異常を認めた場合にご希望があれば外来を受診することができます。その場合には、健診での検査結果を外来でも確認できますので重複検査を避けて迅速に治療を開始することができます。

・看護師、コメディカルスタッフ、事務職員による健診体制

健診システムの責任者、看護師、コメディカルスタッフ、事務職員、健診担当医師が参加する連絡会議を毎月開いて受信者サービスの向上、業務内容の点検と改善のための検討や最新情報の交換を行っています。この会議では受診者様からいただいた貴重なご意見やご要望も参考にさせていただいておりますので、お気づきの点がございましたら「ご意見箱」を是非ご活用ください。

・面接指導、保健指導、フォローアップ

三大疾病のうちの癌や心臓病、高血圧、それに生活習慣病や糖尿病は初期の段階では自覚症状がないまま少しずつ進行する場合があり、これらの隠れた異常を病気が発症する前に未病の状態で発見し、初期の段階で治療を開始するには健診は極めて有効な手段であるといえます。

健診医は受診された皆様全員に直接面談して健康に関するご相談、検査結果の説明、問題点がある場合にはその解説と対応のための指導も行っており、また詳しい検査が必要と思われる場合には適切な医療施設への紹介も行っています。

・将来に向けての健診事業

長寿国となり高齢者人口のさらなる増加が予測される中で、日本老年医学会は最近の高齢者には心身ともに機能が老齢化する時期が 5～10 年遅延する「若返り」現象がみられ、とくに前期高齢者の仕事に対する意欲は衰えていないとする調査結果を発表して高齢者に対する従来の固定観念を改めて社会活動の重要な担い手としてその役割を検討する必要があるのを提言しています。

健診の現場でも同様の印象を受ける高齢の方々が増えてきており、高齢者健診のあり方や内容に関する検討は早急に始めなくてはならない課題と言えます。

　その一方で、治療が必要とする病的所見を健診でたびたび指摘されながら無症状であることを理由に治療を受けずに放置したままの受診者が少なからずおられ、未病の段階で発病を阻止しようとする健診の本来の目的が活かされていないケースが珍しくありません。

医療制度が異なる欧米では、健康を維持するための健康リテラシーを増進するさまざまな努力が行われていますが、医療に重点を置いたわが国の保健医療制度では健康を守る「保健」という視点が十分でなかった可能性があり、「保健」の一端を担う健保組合による健康リテラシー増進の役割はますます重要になったと言えます。

　今後は、健診施設と健保組合、さらに産業医が連携して健康リテラシー増進に取組み、必要に応じて臨床医が早期治療を行うとする一連の保健医療体系を完成させることが求められており、これに関わる医師を全て擁している当院は、その目標に積極的に取り組むべき使命を負っていると言っても過言ではありません。